

糖尿病を発生させる要因について ～オープンコホート研究～

財団法人 郡山市健康振興財団 健康センター¹

東海大学 医学部 基礎医学系 医学教育・情報学²

○三浦 利恵子¹⁾、大櫛 陽一²⁾

【目的】

当施設では、労働安全衛生法による事業所健診を実施している。1999年よりライフスタイルの問診を加え、生活習慣改善等を促す目的にその把握に努めてきた。今回、どのような要因が血糖値異常と糖尿病を起こすかを分析、検討した。

【対象】

1999年4月から2007年5月までの期間に、2回以上事業所健診を受診した20歳代から60歳代までの夜勤者を除く者。

【方法】

ベースラインとして、初回受診時に糖尿病の病歴がなくイベント発生のない者を選び、オープンコホートでイベント発生について追跡した。統計解析にはCox 比例ハザード回帰分析を用いた。

1. 血糖異常イベント：男女別・5歳ごと基準値範囲を基に、上限値を超えることを血糖値異常発生とした。

対象者数 ： 4 3 7 5 人（男：2 5 9 2 人・女：1 7 8 3 人）

2. 糖尿病イベント ： 空腹時血糖 1 2 6 mg/dl 以上、糖尿病既往歴の発生とした。

対象者数 ： 4 5 0 8 人（男：2 6 9 9 人・女：1 8 0 9 人）

【結果】

1. 血糖異常イベントでは、イベント発生割合が 10.0%で朝食の欠食やアルコール摂取量の増加、BMI、収縮期血圧、GPTの上昇が血糖値異常を発生させる因子であった。

2. 糖尿病イベントでは、イベント発生割合が 3.3%であり、アルコール摂取量の増加や加齢、BMI、拡張期血圧、GPTの上昇、HDL-Cの低下が糖尿病発症させる因子であった。

【考察】

両イベント発生では、インスリン抵抗性等と関係する肥満と脂質に関する因子（BMI、GPT）の増加、血圧上昇、アルコール摂取量の増加と関係していた。つまり、男女別・5歳ごと上限値オーバーのイベント発生は糖尿病へ移行しやすい血糖異常をあらわしたものであるため、男女別・5歳ごと基準値範囲を超えた時点での生活改善を促し、早期改善をすることで将来の糖尿病発症予防に有効となるのではないかと考える。